

議会報告会結果報告

開催 日時・場所	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年5月21日（土）10時～11時30分/大船学習センター 第1集会室 ・令和4年5月22日（日）10時～11時30分/鎌倉市役所 議会全員協議会室 ・令和4年5月22日（日）14時～15時30分/オンライン 			
出席議員	千 一	後藤 吾郎	中里 成光	くり林 こうこう
	井上 三華子	武野 裕子	岡田 和則	出田 正道
	日向 慎吾	児玉 文彦	保坂 令子	高野 洋一
	藤本 あさこ	久坂 くにえ	池田 実	納所 輝次
	くりはら えりこ	吉岡 和江	志田 一宏	中村 聡一郎
	前川 綾子	大石 和久	竹田 ゆかり	森 功一
参加人数	22人			
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年2月定例会の報告 ・意見聴取（テーマ：「多世代をつなぐ地域コミュニティ」） 			
内 容	<p>【委員長報告への質疑】</p> <p>Q. 生涯学習センターの利用区分について。 A. 議会としては付帯決議を出し可決されているので、利用区分改定後（10月）から半年以降の検証を見ていく。</p> <p>Q. 市長の再議をこんなところで使ってよいのか。 A. 今回の再議は議会提案に対してのものなので、議会としてもしっかりと考え受け止めていく必要がある。</p> <p>Q. 野村総研跡地の現状。敷地内の樹林管理について。 A. （現状を報告した）</p> <p>【意見聴取での意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会報告会の意見聴取と言いながら定数が10人は少ないと思った。広報に力を入れてないのか。 ・議会報告会の認知度が低いのかな。緩い感じでだれでも参加できるようにしてほしい。 ・コミュニティーは、何を目的にやるのかが大切。学校を中心にしてやる場合、障がいを持っている方、お年寄りを含めた別の地域コミュニティーを作っていくのか。目的を洗い出しながら議論の場を提供してほしい。多世代交流で何を話していいのかが正直迷っている。 ・テーマがざっくりしすぎている。あまりにも膨大なテーマと感じる。 ・参加してよかった。 			

【ご意見・ご要望等】

- ・市も議会も短期的な視点しかもっていない。長期的視点で政策を。
- ・議会も時間軸が見える質問をしてほしい。ごみ問題も時間軸がないので先が見えない。
- ・行政は市民の思いや考えを正確に理解していない。
- ・後継者がいない状況では、市に道筋を付けてほしい。その中で市民が意識化改革をしていく必要がある。
- ・市営住宅建設など、莫大な予算が投入されるものは、地元の業者に依頼してほしい。
- ・市長は学習センターを利用したことがあるのか。あるならこんな利用区分にできるはずがない。
- ・市長の再議権は、今回のような問題レベルで発動してよいのか。
- ・生活福祉課と共同で貧困世帯に食糧支援をしている。80世帯準備していたが足りず、追加した。児童扶養手当を支給している貧困家庭が650世帯以上ある。そうした家庭に一軒一軒配達をしている。生活福祉課と共同でやっているが、こども相談課も熱心にならなければいけないと思う。食材を集めないと配れないが、環境部のフードドライブも生活困窮者は関係ないとしている。一緒に取り組んでほしい。市議にお願いしたいのは、市の縦割り行政をつなぐこと。
- ・なぜ多世代コミュニティをつくりたいのか提示が欲しい。
- ・市営住宅の入居者に対するサポートはどのように行うのか。住民は不安でしようがないと思う。
- ・地域コミュニティの中にNPOが入ると思った。市は、自治町内会のことを考えているようだがNPOについて今はどうなのか。

(多世代をつなぐ地域コミュニティ問題意識)

- ・人口が今後、逆ピラミッド型になっていくのであれば、下の世代が引き継いでいけるのは限られていく。
- ・行動するなかでつながりは生まれてくる。
- ・NPOやボランティアの高齢化が進んでいて、10年後の会の存続が危ぶまれるケースが多い。
- ・鎌倉市や議会としてのNPOサポートに対する指針や道筋を付けてほしい。
- ・公民館活動、社会教育では、町内会に丸投げをし、地域が置き去り。社会教育のありかたを、住民主体で考えるべき。
- ・ボランティア、消防団、自治会などかかわっているが、多世代がつながっているという認識はあまりない。
- ・今ある施設だけでは足りない。
- ・集いの場が少ない。
- ・今泉台在住。コロナ禍で夏祭りがなくなり、地域の人との交流機会がなくなった。高齢化率が高く、私も若者として何かやれたらと思うが、場もないし、

きっかけもない。人のつながりができる地域になりたい。

・鎌倉は恵まれた地域。地域愛が強い人がいっぱいいる。役に立つ活動でやりがいがある。いろんな人が行動している台のような温かい社会にあこがれる。何か作っていききたい。

・自助、公助には限界がある。企業にも限界がある。共助で地域同士の助け合いが必要。流山市はできている。

・市の施設運営を丸投げするのではなく、共助の考え方をもってあたらしいまちづくりをしないと、まちとして弱い。

・地域コミュニティを作っていくのは大事だが、中心となる自治会、民生委員等の役員をお願いするのが大変。

・梶原の山道の整備では、竹藪が茂り、保育園児の通行が危険。刈るとユリ、ホタルブクロなどが出始めた。定年退職者の活動なので、今後どう活動を引き継げればよいか。

(多世代をつなぐ地域コミュニティ情報発信)

・まずは人口動態。2050年は、年齢構成などがどうなっているのかのシミュレーションがはっきりありその上で、対応がどうなのか、バランスはどうなのかがある。鎌倉市の人口動態を市民に示さないと客観的議論ができない。

・現状認識とともに過去の認識も必要。戦前や明治など、山がどうなっていたのか。雨降って風が吹くと巨木がどんどん倒れる。その始末ができない。放置してる。

・町内会は回覧板、若者はSNSで情報を広げている。

・多世代交流のきっかけ、共通事項、場を知るきっかけがない。

・13年住んでいて普通の暮らしをしている中、「孤独」「ヤングケアラー」が多いと聞くが、実感がない。本当に困っている人が声を上げやすい環境づくりが必要。一人暮らしの高齢者に対して、情報発信が必要。

・知ってもらうきっかけをどうするか、認知につなげるにはどうするかだ。

(多世代をつなぐ地域コミュニティ提案)

・起爆剤となる催しをしたらどうか。多世代によるイベントなど。

・平和行進みたいに多国籍の多様性のあるイベントを開催したらどうか。

・シルバー人材センターのように気軽に高齢者が働ける場所をつくり、子どもたちが手伝うなどで、多世代共生が自然にできるのではないか。

・多世代をつなぐコミュニティは、「場」が必要。

・空き家の活用。

・手芸・踊り・歌など、サークル活動の場が地域に欲しい。

・緑地保全会で活動している。年に2回の餅つきでコロナ前は150~180人くらい、世代を超えて集まる。台は地域力があるので、それが広がっていくといいと思う。今日、台峰の保存会では3歳から84歳が参加した。かなり特殊な例だと思う。顔の見える関係が大切。防災でも強い力になる。何かをきっかけにし

て、つながっていくとよい。

- ・学習センターでやるよりも、鎌倉らしくお寺でやると良い。
- ・市民活動センターや、芸術館など、市民の学習の場をもう少し市民に開いたほうがよい。大手事業者は割が合わなくなったら撤退する。新しい企業やベンチャー企業で若者を呼び込む。

(学校・子ども)

- ・コミュニティー・スクールが今年から動き出している。学校を中心としたさまざまな人のまじりあいには大切。鎌倉市は評議員が中心になってやるようで、それが今後どうなるのかが私の課題。
- ・学童保育、フリースクールはウルトラプログラム同様に必要。補助を（で？）適切に運用してほしい。
- ・ウルトラプログラムは市の先の社会とつながっていない。その先に何があるのか。
- ・教育分野は、官民連携が必要。
- ・フリースクールから社会に出て、どうするのが重要。
- ・明石市は若い人の取り込みはすごい。

(若い世代)

- ・若い世代は関心がないように思えるかも知れないけど、地域の役に立ちたいと思っている人はいる。連携が始まるきっかけにはなる。
- ・息子は鎌倉が好きだという。そういう学生はいっぱいいると思う。次の世代につなげることも市がやっていただけたらと。市が率先して若い世代を表に出してほしい。子ども議会もいいが、セレモニーのようになっている。小、中、高、大がつながっていくようにアクションを起こしてほしい。入れ物をつくるより、人づくりに力を入れてほしい。
- ・人口減に対し、どうすれば若者が定住するか。深沢も若者が住みやすいまちづくりが必要。逗子との境には、公共施設がない。これからは、移動式交番、支所の工夫が必要。
- ・若い人が高齢者を理解する取り組みが欲しい。

(高齢者)

- ・学習センターの昼間の時間帯が使いにくくなった。利用料値上げで厳しい。
- ・貧困家庭の子どもの学習支援は高齢者でもできる。
- ・ウルトラプログラムは良いが、火おこしなどに高齢者が関わればよいのに。
- ・場所や家を提供し、バザーをやれば地域の人がある。
- ・ごみの分別が難しい。

(交通)

- ・ 深沢に市役所が移転した際の交通インフラが心配。
- ・ 交通の便が悪い。気軽に乗れるコミュニティーバスなど交通政策に力を入れてほしい。

(健康)

市民病院がなく、救急時、市民の健康をどのように守るのか。